

令和6年度 年間学習指導計画案

科目	世界史探究	単位数	3単位	学年・学科・コース	2年・普通科・普通コース（文系）
使用教科書	世界史探究（東京書籍）		副教材等	グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象を、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
世界の歴史の諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめられる。	世界の歴史事象の意味や意義、特色などを時期や年代、相互の関連や現代とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察し、それらを説明、また、議論できる。	世界の歴史の諸事象について、主体的に探究しようとする態度を持つとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重する姿勢などを持っている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	序章—世界史へのまなざし 第1章 古代文明の出現	<ul style="list-style-type: none"> 各地域の古代文明について、その共通点や相違点、それらが自然環境とどのように関係しているかなどについて理解する。 	○			オリエン特文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解している。	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		古代文明に関わる諸事象に着目し、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義等を多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	古代文明の出現の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
5	第2章 西アジアと地中海周辺	<ul style="list-style-type: none"> 西アジアと地中海周辺の国家がどのように影響を及ぼしあい、どのような共通点をもっているかなどについて理解する。 この世界で成立した宗教が現在の世界の宗教分布とどのように関係しているかについて理解する。 	○			西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		西アジアと地中海周辺の歴史に着目し、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	西アジアと地中海周辺の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
6	第3章 南アジア 第4章 東南アジア	<ul style="list-style-type: none"> 南アジア地域を特徴づける「多様ななかの統一」とはどのようなことなのかなどについて理解する。 東南アジア地域における国家形成が交易や思想・文化とどのように関係しているのかなどについて理解する。 	○			仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアの諸国家などを基に、南アジアの歴史的特質を理解している。	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		南アジア・東南アジアの歴史に着目し、東南アジア・南アジアにおける宗教や文化の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	南アジア・東南アジアの内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
7	第5章 東アジアと中央ユーラシア	<ul style="list-style-type: none"> 東アジアと中央ユーラシアの古代国家はどのようにして生まれたのか、また古代国家の誕生と発展が社会と文化に与えた影響や、それによって生みだされた地域の特色について理解する。 	○			秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向などを基に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		東アジアと中央ユーラシアの歴史に着目し、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国、遊牧民の社会との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	東アジアと中央ユーラシアの内容に、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	

月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
8	第6章 アフリカ、オセアニア、古アメリカ	・ユーラシア大陸以外の地域に成立した文明の特徴について、自然環境との関わりに注目しながら理解する。	○			自然環境との関わりなどを基に、ユーラシア大陸以外の文明の特徴を理解している。	
				○		アフリカ、オセアニア、古アメリカの歴史に着目し、ユーラシア大陸以外の文明の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	ユーラシア大陸以外の文明の特徴について、見通しを持って取り組もうとしている。	
9	第7章 イスラーム世界の拡大と繁栄	・アジア・アフリカの広大な地域が、イスラーム文明圏としてまとまった理由などについて理解する。	○			西アジアの動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播などを構造的に理解している。	
				○		諸地域の交流の広がりに着目し、諸地域へのイスラームの拡大の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	イスラーム世界の拡大と繁栄の内容に、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
10	第8章 中世ヨーロッパ	・9世紀から15世紀にかけて、ヨーロッパ世界ではどのような政治、経済、社会、文化の変動がおこったのか、また、それらの変動の結果は後世のヨーロッパにどのように継承されていったのかなどについて理解する。	○			ヨーロッパ封建社会とその展開を構造的に理解している。	
				○		諸地域の交流の広がりに着目し、ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	中世ヨーロッパの内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
11	第9章 中華世界の変容とモンゴル帝国	・歴史上かつてない規模の世界帝国であるモンゴル帝国はどのようにして生まれ、どのように世界を結びつけたのかなどについて理解する。	○			宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを構造的に理解している。	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		諸地域の交流の広がりに着目し、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	中華世界の変容とモンゴル帝国の内容に見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
12	第10章 インド洋海域世界の発展と東南アジア	・インドと東南アジアにおけるイスラームの広がりが一様でなかった要因などについて理解する。	○			インド洋海域世界と東南アジアの発展を構造的に理解している。	
				○		諸地域の交易に関わる諸事象に着目し、インド洋海域世界と東南アジアの発展などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	インド洋海域世界の発展と東南アジアの内容に見通しをもって取り組もうとしている。	
1	第11章 大交易時代と世界の一体化	・大交易時代に、なぜ世界の各地で社会がほぼ同時に大きく変化したのか、また、世界の諸地域間の関係は、前後の時代と比べてどのように特徴づけられるのかなどについて理解する。	○			諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解している。	
				○		諸地域の交易とヨーロッパの進出に着目し、アジアでの交易の特徴とアメリカ大陸の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	大交易時代と世界の一体化の内容に、見通しをもって取り組もうとしている。	
2	第12章 ユーラシア諸帝国の繁栄	・16世紀から18世紀にかけて、アジア諸地域に成立した諸帝国が比較的安定した社会を維持できたのはなぜか、また経済的繁栄はどのようにもたらされたのかなどについて理解する。	○			アジア諸地域の特質を構造的に理解している。	定期考査 授業態度 課題 プリント
				○		アジア諸地域の動向に着目し、諸帝国の統治、アジア諸地域の特色、日本の対外関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	ユーラシア諸帝国の繁栄に対して、見通しをもって取り組もうとしている。	
3	第13章 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大	・16世紀から17世紀にかけてヨーロッパにあらわれた新しい国家には、どのような特徴があったのか、また、その形成にはどのような要因が働いていたのかなどについて理解する。	○			主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。	
				○		ヨーロッパ諸地域の動向に着目し、宗教改革、大西洋沿岸諸地域の経済的連関、主権国家の特徴、ヨーロッパ社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
					○	主権国家の形成と地球規模での交易拡大に見通しをもって取り組もうとしている。	